

平成23年度

取扱注意

# 授業改善推進プラン【小学校】

- ①平成23年度北区立小学校学力向上を図るための全体計画(様式1)
- ②平成23年度第2学年・第3学年・第4学年・第5学年・第6学年「北区基礎・基本の定着度調査」(北区教育委員会)結果の内容別・観点別の分析(様式2)
- ③現第6学年平成22年度第5学年「児童・生徒の学力向上を図るための調査」読み解く力に関する調査(東京都教育委員会)結果の分析[全校で実施](様式3)
- ④指導方法の課題分析と具体的な授業改善案 4教科

\* 現第5学年平成22年度第4学年「児童・生徒の学力向上を図るための調査」基礎的・基本的な事項に関する調査(東京都教育委員会)結果の分析  
[実施校のみ](様式4)

東京都北区立 稲田 小学校

平成23年度「北区基礎・基本の定着度調査」を受けての各教科の分析	
国語	2-6年の期待正答率の平均は73.0%、2-6年の区平均は76.3%、2-6年の校内平均は78.7%であった。期待正答率を5.7ポイント上まわり、区平均を2.4ポイント上まわっていた。
社会	4-6年の期待正答率の平均は71.1%、4-6年の区平均は73.6%、4-6年の校内平均は74.6%であった。期待正答率を3.5ポイント上まわり、区平均を1ポイント上まわっていた。
算数	2-6年の期待正答率の平均は73.1%、2-6年の区平均は80.1%、2-6年の校内平均は80.5%であった。期待正答率を7.4ポイント上まわり、区平均を0.4ポイント上まわっていた。
理科	4-6年の期待正答率の平均は72.9%、4-6年の区平均は74.8%、4-6年の校内平均は80.6%であった。期待正答率を7.7ポイント上まわり、区平均を5.8ポイント上まわっていた。

本校の教育目標
○豊かな心の子ども
○考える子ども
○健康な子ども
○努力する子ども

本校が児童に育成したい力
○各教科の基礎・基本。 ○主体的・自発的に学習する意欲と態度。 ○思考力・判断力・表現力・創造力・問題解決能力。

学力向上にかかわる経営方針
○基本的な生活習慣や運動習慣等をしっかりと身に付けられ、意欲的によく学ぶ子どもが育つ
○保健指導・食育の充実
○指導力の向上・わかる授業の推進（自己研鑽に励む）

校内における学力向上推進体制
○学力向上検討委員会を設け、学力を向上させるための授業の在り方や評価方法・通知表などについて検討する。検討結果に対して、研究推進委員会、担任、専科、学力パワーアップ講師、理科支援員、スクールボランティア等がそれぞれ協力し、学力向上を目指す。

本校の授業改善に向けた視点				
指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
○基礎基本と思考力・判断力・表現力をバランスよく伸ばすように指導時間の配分をする。 ○授業の展開に、児童が課題をつかみ、解決の見通しを立てる段階を入れるものとする。 ○児童の考える力を育てることができるよう発問を工夫する。	○個に応じた指導法の工夫・改善を進める。 ○読書指導を重視し、豊かな情操を培うとともに、国語の基礎学力を育てる。 ○北区小中一貫教育モデル校との連携を進めるとともに、広く地域住民と保護者の教育参画を図る。	○研究主題「すこやかな子どもの育成」を設定し、児童一人一人が心身共に健康で元気であるならば、学習においても様々な課題解決に向けて粘り強く努力する子供に成長するであろうという、仮説のもと取り組む。	○新しい指導要領に沿うように評価規準の見直しをする。 ○評価の観点を明確にし、それに基づき個人の記録をとり、手立てを立てて取り組み、努力や成果・変容などの「よさ」を把握する。 ○診断的評価と形成的評価から適切な支援の在り方を工夫する。	○公開授業時にアンケートをとり、改善に役立てる。 ○保護者会や学年便り等で指導方針を伝え、理解と協力を求める。 ○保護者会や連絡帳で保護者の思いや願いを受け止める。 ○地域の施設や人材を活用することで児童の興味関心を高める。

平成23年度 第2学年「北区基礎・基本の定着度調査」(北区教育委員会)結果の内容別・観点別の分析

北区立稲田小学校

国 語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
7つの内容別正答率のうち、「はなしをききとる」「かん字をよむ」「かん字をかく」「せつめい文を読み取る」「文しょうをかく」の5つについては、期待正答率と区の平均を上回っているが、「は」「を」「へ」のつかいかた」「ものがたりをよみとる」はやや下回っている。	5つの観点別正答率のうち「書く能力」「読む能力」「言語についての知識・理解・技能」の3つについては、期待正答率と区の平均を上回っているが、「国語への関心・意欲・態度」「話す・聞く能力」は、期待正答率より高いが、区の平均正答率よりやや低い。	「読む能力」について考えると、全体的には基礎・基本的な学力が身に付いていると考えられるが、説明文に比べて、物語文を読み取る力が、若干不足しているようだ。また、言語についての知識・理解・技能も、ほぼできている子が多い。
算 数		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
9つの内容別正答率のすべてが、期待正答率を上回っている。区の平均正答率と比較して、「ひき算」「長さくらべ」の2つが区の平均正答率を若干下回っている。	4つの観点別正答率すべてが、期待正答率と区の平均正答率を上回っている。特に顕著なのは、「算数への関心・意欲・態度」と「数量や図形についての知識・理解」の2つで、ともに期待正答率対して、高い数値になっている。	内容と観点の両面で考えても、特に劣っているところはなく、むしろ、基礎基本的な内容がほぼ身に付いていると捉えられる。区の平均正答率と比べてみてもどれも高い数値となっている。

平成23年度 第3学年「北区基礎・基本の定着度調査」(北区教育委員会)結果の内容別・観点別の分析

国 語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
7つの内容別正答率のうち5つについては、期待正答率と区の平均を上回っており、「漢字を書く」と「作文」が特に正答率が高い。「ことばの学習」と「物語の内容を読みとる」では、期待正答率は上回っているものの、区の平均より下回っている。	5つの観点別正答率のすべてが期待正答率と区の平均を上回っている。「書く能力」については区の平均を8.1ポイント上回っている。「話す・聞く能力」と「読む能力」「言語についての知識・理解・技能」では、区の平均をわずかに上回る。	自分の考えを組み立てて書く力を持ち、既習の漢字もよく使っているが、片仮名で書く語の種類や使い方の知識がやや不足しているようだ。また、「読む能力」については、説明文に比べて物語文を読みとる力がやや低い。場面の様子等について、想像を広げながら読むことが課題である。
算 数		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
9この内容別正答率のうち6つについては、期待正答率と句の平均を上回っている。「たし算」「いろいろな形」では、期待正答率は上回っているものの、区の平均より下回っている。また、「かけ算のもんだい」は期待正答率、区の平均を下回った。	4つの観点別正答率のすべてが期待正答率を上回っており、「数量や図形における表現・処理」「数量や図形における知識・理解」では区の平均も上回る。「数学的な考え方」では、区の平均を2.2ポイント下回り、差が開いた。	全体の結果からも、基礎、活用ともに期待正答率は上回るものの、区の平均よりやや下回っていることが分かる。「数と計算」において、個々の理解の差が大きいが原因かと考えられる。また、かけ算の意味の理解を深めることが今後の課題である。



平成23年度 第4学年「北区基礎・基本の定着度調査」(北区教育委員会)結果の内容別・観点別の分析

国 語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
7つの内容別正答率のうち全てが区の平均正答率を上回っている。しかし、期待正答率と比較すると、「言葉の学習」においては、下回っている。特に、「物語の内容を読み取る」では、区の平均正答率から見ても、期待正答率から見ても大きく上回る結果となった。	5つの観点別正答率の全てが、区の平均正答率と期待正答率を上回った。中でも、「国語への関心・意欲・態度」は、大きく上回っている。「言語についての知識・理解・技能」に関しては、区の平均正答率、期待正答率ともに平均に近い結果となった。	基礎、活用、思考・判断力、表現力のどれをとっても区の平均正答率を上回っている。しかし内容別正答率を見ると「言葉の学習」が低いことが課題である。漢字の学習をするとともに言葉の使い方、活用の仕方なども学習で強化していくことが課題である。
社 会		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
7つの内容別正答率のうち5つは上回っているが、「市の様子」と「消防署の仕事」が下回っている。期待正答率と比較すると上記のものに追加して「店ではたらく人」が下回っている。4つの項目に関しては、上回っている。特に、「まちの地図の見方」は大きく上	4つの観点別正答率のうち3つが区の平均正答率や期待正答率を上回った。「社会的な思考・判断」は、少しだけ下回った。「社会的事象についての知識・理解」「社会的事象への関心・意欲・態度」「観察・資料活用の技能・表現」においては、約3ポイント上回って	基礎、活用、思考・表現力においては、区の平均正答率を上回っている。しかし、表現力が下回っていることから、学んだことや自分の考えを色々な方法で表現する機会を意図的に設けることが課題である。また、項目によっては、理解の不十分などところがあるの
算 数		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
10この内容別正答率のうち8つが区の平均正答率を上回っている。「かさ・重さ・長さ」と「ぼうグラフと表」は下回っている。期待正答率と比較すると、上記のものに追加し「円と球・三角形」が下回っている。特に「分数と小数」は正答率が高いし「□を使った式」は大	4つの観点別正答率のうち全てが期待正答率を上回っている。しかし「算数への関心・意欲・態度」と「数量や図形についての知識・理解」は、区の平均正答率を下回っている。「数学的な考え方」においては、期待正答率を大きく上回る結果となった。	基礎、活用、思考・判断力、表現力のどれをとっても区の平均正答率を上回っている。しかし、算数への関心・意欲・態度が低いのが課題である。また、全体的には、理解が高いが、小数ではあるが理解の劣る児童もいるので、個別に力を身につけさせる必要があ
理 科		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
10この内容正答率のうち全てが区の平均正答率を上回っている。しかし「じしゃくのはたらき」は、期待正答率を下回っている。「風やゴムのはたらき」は、100%の結果となった。他にも「光のせいしつ」は正答率が高い結果となった。	4つの観点別正答率のうち全てが期待正答率や区の平均正答率を上回っている。特に、「自然事象への関心・意欲・態度」は、期待正答率を大きく上回っている。その他の3つの項目に関しても、正答率が平均して高くなっている。	全体の結果から見て分かるように、基礎においても活用においても正答率が区の平均正答率より上回っているため、よく理解しているといえる。しかし内容別の正答率の中では、2つの項目が低いので、定着が不十分な単元もあると言える。

平成23年度 第5学年「北区基礎・基本の定着度調査」(北区教育委員会)結果の内容別・観点別の分析

国 語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
「漢字を読む・書く」は、区平均を9ポイント上回っているが、「言葉の学習」では、5ポイントを上回る。「話し合いの内容を聞き取る」は、区平均を14ポイントも上回る。「作文」は、期待正答率を上回るが、区平均より3.5ポイント低い。	「読む能力」「関心・意欲・態度」「言語についての知識・理解・技能」は、区平均より7～10ポイントも上回っている。「話す・聞く能力」は、3ポイント上回る。しかし、「書く能力」は、区平均を0.3ポイント下回る。	言語については、修飾語についての理解が低い。「書く力」では、目的や相手に応じた適切な表現の力が、不足している。正答率が0ポイントの児童が、3名もいた。書く力を付けさせていくことが今後の課題である。
社 会		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
すべての内容は区平均を上回っている。しかし、「索引を利用して、地図帳を読み取る力」は、期待正答率を7ポイント、「地形図上の各地点の標高をとらえ、断面図に表す力」は、25ポイントも下回る。	すべての観点において、区平均を5～8ポイント上回る。「健康な暮らしをささえる」は、期待正答率を14ポイントも上回っているが、「地域の人々の生活」の理解は、あまりよくない。	基礎力は、期待正答率を12ポイント上回る。思考・判断力は、期待度並、表現力は3ポイント下回る。すべての内容において、期待度を下回った児童が1名、それに続く児童が2名いた。極端に理解の劣る児童に力を付けさせていくことが、課題である。
算 数		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
全体は、区平均を7ポイント上回る。「小数の計算」「角の大きさ」「長方形の辺どうしの垂直な関係」「電車とバスの乗車時間を求め、比較する」は、期待正答率並。	すべての観点において、区平均を5～10ポイント上回る。「数と測定」は、区平均を4ポイント上回るが、理解がよくない児童が多い。	基礎力、表現力は、期待正答率を10ポイント近く上回るが、思考・判断力は、期待正答率並み。内容により0ポイントの児童が何人かいる。その原因を考え、指導していくことが必要である。
理 科		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
すべての内容は、区平均を上回っている。「もののあたたまりかた」は、20ポイントも上回るが、「1年間の植物の成長」と「1年間の動物のようす」に関しては、他の内容に比べて理解はあまりよくない。	すべての観点において、区平均を12～15ポイント上回る。「物質とエネルギー」「地球と宇宙」に比べて、「生物とその環境」の正答率は、高くない。	内容別・観点別では、区平均を下回っているものはなく、安定した力を付けてきている。しかし、物理的な内容に比べて、生物に関しては、関心が低く、理解も十分ではない。

平成23年度 第6学年「北区基礎・基本の定着度調査」(北区教育委員会)結果の内容別・観点別の分析

国 語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
7項目の内容のうち、期待正答率に達しているのは、「話し合いの内容を聞き取る」のただ一つだけである。「物語の内容を読み取る」は期待正答率にわずかにポイント不足している。その他「作文」「説明文の内容を読み取る」「言語の学習」は5ポイント以上低い。	5項目の観点のうち、期待正答率に達しているのは、「話す・聞く能力」のただ一つである。「国語への関心・意欲・態度」は2ポイント不足し、「書く能力」「言語についての知識・理解・技能」「読む能力」は5ポイント以上低い	「話す・聞く」能力は決して低くはないが、「言語についての知識・理解・技能」が劣っているため、それらを使って表現されている文章を読みこなすのはとても難しいと考えられる。
社 会		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
8項目の内容のうち、期待正答率より上回っているのは「日本の農業」をはじめ5項目ある。「わたしたちの生活と環境」においては6ポイント上回っている。しかし「日本の水産業」「日本の貿易」「私たちの国土と気候」は6ポイント以上低い。	4観点のうち、期待正答率に達しているのは、「社会的事象への関心・意欲・態度」のただ一つである。その他「社会的な思考・判断」「観察・資料活用 of 技能・表現」「知識・理解」は1～2ポイント低い。	「社会的事象への関心・意欲」は決して低くはないが、学習したことをしっかりと記憶していないため、理解力・思考力・判断力などが劣ってしまうのではないかと考えられる。
算 数		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
9項目の内容のうち、期待正答率を上回ったのは4項目で「合同と立体」「三角形と四角形の面積」は7ポイント以上よい。しかし、その他は低く、特に「整数の仲間分け」は18ポイント、「百分率とグラフ」は15ポイントと際だって低い。	4観点すべてが期待正答率より低い。その中でも「数量や図形についての知識・理解」はわずか0.7ポイント差だが、「数学的な考え方」は7ポイント、「関心・意欲・態度」は4ポイント、「表現・処理」は5ポイント低い。	内容別でも観点別でも結果は良くない。また、4教科のうちもっとも「関心・意欲・態度」が低い。それは、「分からないからできない。」更に、「できないからおもしろくない」といった悪循環に陥っているのではないかと考えられる。
理 科		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
9項目のうち、期待正答率を上回っているのは、「天気の変化」をはじめ5項目ある。「電流のはたらき」においては14ポイント上回っている。しかし「植物の受粉」をはじめ4項目は低く、特に「おもちゃを使った実験」では9ポイント差となっている。	4観点のうち、「自然事象についての知識・理解」を除いて、残りの3項目は期待正答率を上回っている。中でも「関心・意欲・態度」が最も高く6ポイント高い。また、4教科の中でも最も結果が良くなっている。	「自然事象への関心・意欲・態度」は全体的に良く、観察や実験に対しても積極的に取り組もうとしている。知識はやや低い、科学的な思考は決して低いとは言えない。

現 第6学年 平成22年度第5学年「児童・生徒の学力向上を図るための調査」読み解く力に関する調査(東京都教育委員会)結果の分析〔悉皆〕

国語

結果の分析	授業改善の視点	具体的な授業改善案
基本的な「文のつくり」を理解していないため、文章中から登場人物の行動を正確に取り出すことができないようである。また、「行動の変化」に着目して読み取ることができないため、人の行動がどのような順番で変わったのかを、時間の順番に即して登場人物の行動を関連付けて読み取ることができないと思われる。	登場人物の行動を正確に取り出すために、文の基本的なつくりの知識・理解を生かすようにする。人の行動がどのように変わったのか、時間の順序の即して登場人物の行動を関連付けて読み取るために、文章の変化に目を向けさせる。場面全体を本文に基づいて理解し、目的に合わせて要約できるようにするために、目的に合わせて文章全体を捉えるようにさせる。	「誰が、何を、何のために、どのように、どうした」という文の基本的なつくりに基づいて、文を分析し、情報を正確にとらえさせる。また、文の主語と述語に着目して、いくつかの文を比べ、「誰が、どうした」という基本的なつくりについての変化を捉えさせる。さらに、学習した内容を生かして、目的に合わせて文章全体を捉えさせる。

社会

結果の分析	授業改善の視点	具体的な授業改善案
グラフの縦軸と横軸が何を表しているのか理解できなかったことよって、グラフから月別平均の最も高い月・最も低い月を正確に取り出すことができないようである。また、グラフと表を結び付けて理解できないため、A地域とB地域の月別平均気温のグラフとレタス栽培ごよみの表を関連付けてA地域の気温とレタス作りの関係を読み取ることができないと思われる。	グラフから情報の取り出しが正確にできるようにする。また、グラフを読み取るだけでなく、調べた成果をグラフなどに表現させることも大切にする。また、比較・関連付けを行い読み取る力と、意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力が、児童に身に付くようにするために、手立てを工夫し、授業改善していく。	授業にグラフの読み取りを積極的に位置づけ、「グラフのタイトルは何か。」「出典はどこか」「縦軸、横軸は何か。」「最高最低の数値はいくつか。」「など発問を工夫し、なぜそうなるのか、理由などを子ども自身が説明できるようにする。また、獲得した「社会的な見方・考え方」で他の事例を説明する場を設定し、その見方や考え方が深まったり広がったりできるようにする。

算数

結果の分析	授業改善の視点	具体的な授業改善案
折り紙を重ねたときに面積の増える部分を正確に取り出すことができるかどうかの問題では、2枚の折り紙の重なった部分を答えてしまったことによる誤答があった。また、増えた部分の面積を、長方形や正方形に分け、既習の図形の面積の求め方と関連付けて読み取ることができるかどうかの問題では、増やす折紙分だけそのまま面積が増えると考えた誤答があった。	必要な情報を正確に取り出す力を付けるために、問題場面を正しく絵や図に表すようにさせる。比較・関連付けて読み取る力を付けるために、既習の図形と関連付けて面積を求めさせたり、折紙の枚数と面積とを関連付けて表に表すようにさせる。意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力を付けるために、2量の関係を見つけ、その関係を利用して問題を解決させる。	問題文を整理し、「何を求めるのか。」「どのような条件なのか。」「数値はいくつなのか。」「などの情報を、絵や図、表などで視覚的に表すようにする。また、授業で、自力解決を行う際には、これまでに習った学習内容とどこが違うのか、何が使えるのかを見通しを持たせるようにする。

理科

結果の分析	授業改善の視点	具体的な授業改善案
温度の変化について正しく読み取る問題では、縦軸と横軸の関係を理解していないことによる誤答があった。また、地面の温度の変化を表しているものを選ぶ問題では、傾きを理解していなかったことによる誤答と考えられるものがあった。更に、太陽の動きから陰のでき方を考え問題を解決する問題では、太陽の動きと陰のでき方について理解していなかったことで誤答があった。	必要な情報を正しく取り出す力を付けるために、調べたことをグラフに表す活動を行ったり、グラフの縦軸、横軸の値を考えさせたり、グラフの値を比較させたりする。また、比較関連付けて読み取る力を付けるために、取り出した部分と部分とを比較したり、部分と部分を関連付けて考えさせたりする。更に、これまでに学習している太陽の動きから校舎の陰のでき方を考えさせたりする。	指導のポイントを踏まえ、グラフの傾きを正しく捉えさせる。また、比較・関連付けて読み取る力を付けるために、グラフのどこに着目させるかが大切となるので、よく検討する。問題を解決するためにどのような学習してきた内容に、どのように着目させるかが大切かを考える。例えば、本文では、グラフの変化から「太陽の動き」を想起させる。

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（国 語）

北区立稲田小学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
2年	言語についての知識・理解・技能を定着させるために、「は」「を」「へ」などの助詞の使い方をしっかりと指導することが必要である。また、「話す・聞く能力」を、もっと高めていくにはどうしたらよいか考えながら、日頃の授業を進めていかななくてはならない。	助詞の使い方の表記については、日頃のノートや日記帳などに文章を書く際、自分の表記に間違いがないかを確認させたり、個別指導で誤りを細かく訂正させたりする回数を増やしていく。国語の学習時だけでなく、話したり聞いたりする機会を多く設け、慣れさせていく。	国語への関心・意欲を更に高めるために、今まで興味を持たなかった本や何かの理由で抵抗を感じていた本などについて、教師が意図的に内容を少し紹介するなどして、児童一人ひとりの読書の幅を広げていき、もっと物語のおもしろさを伝えられるようにする。
3年	「読む能力」のうち、特に「物語の内容を読み取る」力をつける指導が必要である。事柄や時間的な順序を考えるだけでなく、場面の様子などについて、想像を広げながら読むことができるように、指導の工夫を図っていく。	叙述に即して文章をとらえ、どんな場面であるのか、言葉や絵で表して理解を深める手助けとなるようにする。また、登場人物の性格や心情等を想像し、小グループで友達と話し合いながら確認できる機会を多く設け、具体的に指導していく。	登場人物や場面の様子を想像する時、児童自身の体験がもたことになることも多い。実体験はもちろんのこと、読書活動を通じて想像力の幅を広げていけるよう、様々なジャンルの本を紹介し、児童の読書の幅を広げていく。
4年	「言語事項」が他の観点に比べるとやや低いので、言語についての知識・理解・技能の力を身につける指導が必要である。また、「読むこと」については、説明文の内容を細かい点に注意して文章を読むことや、段落相互の関係を考え読むことができていない児童が多く見られた。	授業の中で意図的に、漢字を読むことや書くことの時間を設けて、繰り返し定着できるように指導をしていく。また、家庭学習でも復習するように課題を出すようにする。文章を読みとるために、中心となる語や文をとらえることや、目的に気をつけて読むことを意識させて読み取るよう指導する。	新出漢字の学習をしながら、平行して既習事項の漢字についても繰り返し復習をするようにして、より定着できるようにしていく。読むことについては、個々に文章の大事なところに線を引くことや、細かい点についてノートにまとめるなどをして、日頃から記述の機会を増やしていく。
5年	目的に応じた文章表現が苦手な児童が多い。どのような表現をしたらよいか等を具体的に指導していくことが必要である。漢字や言葉がなかなか定着しない。	毎日漢字練習を家庭で行い、翌日には必ず取り組んだものを評価し、児童の励みにする。作文指導においては、書くめあてを明らかにし、苦手な児童には、個別指導を行う。	朝の読書タイムを確保し、先生の本棚コーナーや友だちの勧める本を紹介したりし、読書力を高める。友だちの書いたものを読み合い、アドバイスをを行い、表現力を高める。
6年	まず、何より「言語についての知識・理解・技能」の指導方法を見直す必要がある。また、それと同時に、国語に対する「関心・意欲・態度」を高めるための指導を見いだしていく必要がある。	「言語についての知識・理解・技能」を高めていくために、言葉に意味や使い方、漢字や成り立ちなどについてももっと丁寧に教えていかななくてはならない。言語力を身につけることにより、授業の内容が分かる気持ちにさせ、もっと「国語への関心・意欲・態度」を高めたい。	言語力が極端に劣っている児童に対しては、文章中の漢字に読み仮名を自由にふってよいことにし、すらすら音読ができるように支援する。また、国語辞典や漢字辞典ですぐ言語を調べることができるよう、環境を整える。

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（社会）

北区立稲田小学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
3年	「学校のまわりのようす」では、意欲をもって探検の計画を立て調べることができたが、絵地図を見て方位や関係を読み取ることは、理解に個人差があり、あまり定着していない児童もいる。方角をおさえ、地図と実際の周りの様子を結びつけて考えられるように、指導方法を改善していく必要がある。	方角や地図記号などの基礎的な内容は、普段の授業などで繰り返し指導をする。また、観察や調査をする際の目的や観点をより明確にし、正しく理解しながら表現するようにする。北区の様子については、実際にその場所を訪れ、友達同士で発表し合うことにより理解を深める。	大型テレビでフラッシュカードのように地図記号や方位を提示したり、白地図の学習も取り入れたりしながら、地図や方角の定着を図っていくようにする。児童の体験に基づき各種資料を効果的に活用していく。
4年	「災害や事故から人々の安全を守る」においては、身近な問題で関心が高く、実際に見学に行き多くのことを興味を持って学んできた。しかし、テストの結果から見ると、消防署の仕事や働きについての理解が不十分だった児童が多く見られた。	課題やねらいをより明確にし、正しい知識を身につけさせるようにする。自分の興味に偏らずに、この単元で必要なことを落とさないように指導をする。そのために、教科書やノート他に、資料集やワークシート、ICTをより積極的に活用し、よく理解できるように改善をはかる。	社会科見学に行った後のまとめの学習を充実させる。たくさん学んできた内容のうち、特に必要な知識を再確認し、理解できるようにさせる。社会的な関心は高いところは、とても良いので、思考や判断が正しくできるように、指導をしていく。
5年	地図帳の使い方や地形図の見方まで十分に時間をかけなかったものに対する理解が低い。「国土の地形や気候の特色と人々のくらし」については、興味を持って取り組み、ノートのまとめ方を工夫する児童も増えてきた。	「米作りのさかんな庄内平野」の導入では、食料について各家庭での聞き取り調査や発表を熱心に行っていた。意欲的に取り組んでいるので、「なぜ」「どうして」というところまで意識を持たせるようにしていきたい。	課題に対して、いろいろな手立てで調べるようにさせる。また、基礎的知識をしっかり身に付けさせ、事象などに対する自分の考えを持つようにさせる。
6年	「社会に対する関心・意欲・態度」を更に高め、学習した内容をしっかりと記憶させていく指導方法が必要である。また、表やグラフ、絵、写真などから読み取れることを整理しながらまとめたり、まとめながら思考力を高めたりするようにしたい。	社会的な事象を印象づけて記憶させるために、授業で押さえない内容や人物をしっかりと焦点化し、児童が興味を引くような形で導入したり、活動を工夫したりする。また、資料をみる力を伸ばすために、算数で習ったことを想起させながら、ノートに記述させる場面をつくる。	児童に知識力・理解力を身につけさせるために、必要に応じて、学習内容を整理した見やすいワークシートを事前に準備する。また、隣同士やグループでの学び合い、助け合いの時間を大切にし、社会に対する学習意欲をより高める。

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（算 数）

北区立稲田小学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
2年	基礎的な問題でつまづいている児童と思考力を試される問題でつまづいている児童がいる。また、日頃できているのに、テストで間違えてしまうケースが多いことがわかった。やはり、よく問題を読みじっくりと考える習慣と確実に学力が定着するよう指導する必要がある。	具体物の操作を多く取り入れ、自分の力で考えながら基礎的な問題を十分理解できるようにする。日常生活に結びつく学習は日頃から意識して、日常生活に生かしていく。ケアレスミスをなくすよう落ち着いて問題に取り組んだり、見直しをする習慣を身につけさせるようにする。	補充的な学習として、基礎・基本をより確実なものにするために反復練習などを随時取り入れ学習内容の定着をはかる。発展的な学習として、問題づくりに取り組ませたり、文章問題を絵や図を使って友達に説明させるなど算数の興味関心を広げ、応用的な活動も取り入れていく。
3年	計算式を与えられると意欲的に取り組むことができるが、文章問題ではつまづいてしまう児童も多い。「数学的な考え方」を伸ばしていくことが必要である。また、コンパスの使い方に慣れ、作図の力がつくよう繰り返しの指導が必要である。	既習の学習事項をよく振り返り、見直しをもって問題を解決することができるようにする。計算方法だけ理解するのではなく、なぜそうなるのか自分で考える時間、友達同士で発表し合う中で理解を深める時間を多く設けるようにする。	補充的な学習として、基礎・基本をより確実なものにするために、反復練習等を随時取り入れ学習内容の定着を図る。作図に繰り返し取り組み、器具の扱いに慣れる。発展的な学習として、個々に合った問題を用意し、興味・関心を広げ、応用的な問題にも意欲的に取り組めるようにする。
4年	児童の実態、学習内容、レディネステストの結果により少人数指導の編成や学習の進め方を工夫してきた。それにより、個別指導が十分にできる。また発言をする児童が増えている。しかし、調査結果より関心・意欲が低いことから興味をもって取り組める授業改善が	教科書の他にも具体物を取り入れ、楽しんで授業に取り組める教材の工夫をする。また体験するなど身近に親しんで学習ができる環境作りをする。また、定着を確実にするために、既習事項を折りにふれ行い、学習の充実を図る。ふり返りの機会を意図的に設ける。	補充的な学習として、基礎・基本をより確実なものにするために反復練習などを随時取り入れ、学習の定着を図る。また、生活の場での活用を意識させる。発展的な学習として、個々に合った問題を用意し、興味・関心を広げ、応用的な問題にも意欲的に取り組めるよう
5年	新しい単元に入る前にレディネステストを行い、児童の既習学習の定着状況を把握してから、学習に入るようにしている。しかし、既習内容ー計算力や図形の性質などをしっかり身に付けていないために、いろいろなどころでのつまづきが見られる。苦手意識を持っている児童が多い。	つまづきそうな内容に関して、時間を確保してじっくり取り組ませる。ドリル等を活用し、計算力を身に付けさせる。くり返し取り組ませ、自信を付けさせる。早く解決できた児童には、より考えを深める課題や発展的な内容の課題を与える。	補充的な学習として、基礎・基本をより確実なものにするために反復練習などを随時取り入れ学習内容の定着をはかる。発展的な学習として、個々にあった問題を用意し、意欲的に取り組めるように工夫していく。
6年	1～5学年までの学習がしっかりと身に付いていないことにより、新しい学習に入ってもすぐにつまづいてしまうため、レディネステストで学力を診断し、どこから分からないのかといった分析が必要になる。	児童一人一人の学力差がかなり大きいいため、少人数担当教諭とよく相談し、単元ごとにどのようなクラス分けを行うか考えなければならない。特に数学的な考え方に学力の偏りがあるため、2つのクラスでは異なった指導法が望まれる。	学力が劣っている児童には、同じ問題を何度も繰り返して行い、より早く確実にできるようにさせていく。一方、学力が高い児童には、問題の解き方を何通りも考えさせたり、説明の仕方にも工夫を入れさせたりする。

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（理 科）

北区立稲田小学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
3年	「植物を育てよう」「昆虫を育てよう」では、実際に育てることで関心を高め、意欲をもって学習に取り組む事ができた。しかし、「植物のからだのつくり」や「昆虫のからだのつくり」の理解に個人差があり、定着が不十分である。個々の児童が適切に理解できるよう指導をする必要がある。	「植物の体のつくり」については、実物の観察だけでなく、ノートや習熟プリントを使用し、何度も繰り返し確認する。「昆虫のからだ」については、観察する点を明確にし、観察後には必ず確かめるなど正確に習熟できるようにする。	図鑑やインターネット、大型テレビや教材提示装置を用いて、学習内容をより充実し、深めていく。また、自然に触れる機会を多くし、実際に観察できる学習環境を作っていく。実験では、ねらいをもとに予想をもち、個々やグループで問題解決を図り、科学的な見方や考え方が育つよう指導する。
4年	「観察や実験」を多く取り入れてきたので、全般的に正答率が高い結果となったと考えられる。しかし、単元によっては、理解の不十分な児童も見られるので、観察や実験のめあて明確にもたせ、結果からしっかりと理解できるように指導をする必要がある。	観察や実験を行う前に課題をしっかりと把握させる。そして、根拠のある予想を立てさせ、見通しをもって観察や実験に取り組めるようにする。観察のポイントや実験の方法は熟知させ、記録もきちんと取らせる。できるだけ一人一人が取り組めるように教材を準備し、	単元の内容によっては、実験や観察が難しい面があるので、テレビやパソコンのインターネットの活用を取り入れるなど柔軟に指導ができるようにしていく。児童の興味・関心を高め、学習内容を広め深められるような資料を用意したり、出張授業を活用したりする。
5年	天気について、インターネットで調べ、情報を得て、予測することができた。しかし、テストの結果からみると確実に身に付いたとは言えない。「植物の発芽と成長」の条件が混乱している児童が多い。	生物的な内容に意欲を持たせるために、継続的に観察できるような環境作りをしていく。また、観察、発表の機会を生かし、友だちの発表等から多くのことを気づかせる。また、実験、観察の観点を明らかにして、取り組ませる。	天気の学習で身に付いたことなどを実際の生活の中で生かすような機会を設ける。学習内容を広げたり、深めたりするために「もっと調べてみよう、学習してみよう」と発展的に学習活動に取り組めるような指導計画を立てることも必要である。
6年	生物、環境、物理、天体など個人によって得意な所とそうではないところがあり、学力にムラがあるため、理科全般に渡って、「関心・意欲・態度」を高めていく指導方法が必要となる。また、実験の予想と結果のまとめ方、実験への取り組みせ方についても改善していく。	実験や観察をする際、児童にとって最高の学習環境を整えられるよう、道具や場所、人数や方法などについて、理科支援員と事前によく打ち合わせを行う。したことをノートにまとめながら、考えたことを仲間同士で話し合い、思考力を高めていく。	児童の人間関係や性格などを考慮して、全員がしっかりと観察と実験できるよう、事前に指導を行うようにする。また、安易で軽はずみな行動をしがちな児童に対しては、危険を予測する必要性を常に教えるようにし、理科の学習が安全で楽しく行えるようにする。